取り組みについ
ーマにICT活
流れや法面工事
状況を説明。I
工事の導入後の
動環境の変化に
受注者へのアン
査の結果を交え
た。このほか、
て3次元データ
帝するための機
ン処理システム
者もあった。
は次の通り。
（敬称略）
場代理人】山本
ワ産業）▽川
ーエム建設）
紀（中鋼産業）
之（東伸）▽大
ヒノデ開発）▽
（広建産業）
術者】阿瀬田吉
産業）▽温品
ワ産業）▽山
日本グリーンメ
ス）▽松井典文
ス）▽山田光成
）

付きカード（レベル2―4）の所有者数は、前年度の129人から143人に増加した。その割合は28％で、日本建設業連がったが、カード所有人数は、技能者で前年度の564人から630人へと増加している。

技術者呼称に関する調CUSの新職種「海洋土木工」の創設に連携して取り組む方針で、国土交通省などに協力を呼び掛けている。

は本社所在地。

▽小川工業（尾道市山波町）▽正夏（福山市芦田町柞磨）▽アリエ（尾道市高須町字有江）

═5県診断士会═

鳥取市で診断士協議会

意見交換会の進め方など議論

コンクリート診断士の地位向上に向けた方策などを議論する「中国5県コンクリート診断士協議会」が10月25日、鳥取市市民交流センターで開催された。主催は、鳥取県コンクリート診断士会（鶴石健治会長）。

協議会の冒頭では、鶴石会長（やまこう建設）が「コンクリート診断士の地位と技術力を向上するためには、5県での情報交換と結束が必要」と強調した。

この日の議題は、今年9月に広島市で開かれた中国地方整備局との「第4回意見交換会」について。意見交換会では、各県の診断士会が日頃の事業活動内容などを報告したほか、老朽化状況や補修事例等の最新状況を共有しており、この日の協議会では次回以降の意見交換会の進め方について議論した。

また、各県で開催している研修内容を他県と共有し、さらなる技術力向上を図る方針を確認。鳥取大学の黒田保教授を交えた情報交換会も開かれるなど、活発な質疑応答がなされた。